

チエコをめぐる情勢と世界革命

- 一、帝国主義列強の侵略・反革命同盟NATO・安保を粉碎せよ！
- 一、ソ連・ワルシャワ同盟軍の反革命的軍事介入粉碎！
- 一、チエコの資本主義化反対！
- 一、ドブチエク政権打倒！
- 一、世界革命の旗の下、プロレタリア権力の樹立へ！

はじめに

チエコをめぐつて流動しつつある世界情勢は一つの時代の終焉を意味している。それはこの間一貫した基調的な傾向であつた。すなわち戦後世界体制の崩壊であり、帝国主義間対立、「体制間対立」、帝国主義の侵略。反革命による植民地抑圧、のからみあつた国際的階級危機の深まりであり、世界プロレタリアートの新たな質の斗争が要求される時代のはじまりである。

ソ連・ワルシャワ軍のチエコ介入によつて顕在化した政治的流动の中で、最も利益を得、優勢にあるのはどの陣営か？疑いもなく帝国主義列強の陣営である。「ソ連はチエコで、アメリカはベトナムで民族自決権を侵してゐる」「社会主義国でも侵略するのがはつきりしたから、非武装中立論は確実した。いまや自主防衛論の正しさ、安保の必要性は証明された」「NATO強化」というふうに、帝国主義の政治的攻撃は圧倒的に強化され、全世界のプロレタリアート、ソ連・ワルシャワ軍の反革命的介入反対！

だが事態の根本的な原因是①EUの成立を契機とする西欧帝国主義（特に西独）の東欧侵透にあり、②米ソ平和共存戦略によるソ連の帝国主義への妥協と、コメコンによる東欧からの收奪が③ドブチ

エク派のチエコ民族主義的なEU（西独）への屈服を生んだところである。そしてソ連・ワルシャワ軍の反革命的チエコ介入はますます平和共存戦略の確立をはつきりさせ、帝国主義列強をして政治的優位に立たせているのである。

以上の国際的政治関係の把握に立つならば、我々の斗争は強まりつつある帝国主義列強の政治的攻撃、そもそもの原因である帝国主義の東欧侵略に対する斗争、粉碎することを第一義におかねばならない。この闘いはNATO強化、安保強化を反対し、粉碎する斗争として、

当面表現されなければならない。この斗争の中に、ソ連・ワルシャワ軍の反革命的軍事介入に反対し、かつチエコの資本主義化に反対し、ドブチエク政権を打倒する斗争を位置づけて、全世界のプロレタリアートが斗争を開始しなくてはならないのである。先進国、後進国、「労働者国家」のプロレタリアートが戦略的に結束して革命戦争を遂行し、世界帝国主義を打倒し、プロレタリア権力を樹立するべき課題が、日常的な政治生活の隅々にまでつきつけられている。

以上から我々のチエコをめぐる世界情勢に対する態度は、次の五

つのスローガンにまとめられる。

一、帝国主義列強の侵略。反革命同盟、NATO。安保を粉碎せよ！

二、チエコの資本主義化反対！

三、ドブチエク政権打倒！

四、世界革命の旗の下、プロレタリア権力の樹立へ！

五、月佐藤訪米阻止斗争を控えて、九月、十月の斗争を開き、中で我々はこの立場を表明して斗争抜くであろう。我々は八日国際反戦会議に

結集した国際的、国内的諸党派に呼びかけ、一〇、一一国際反戦斗争を、先に述べたスローガンの下に斗うことの一致を勝ちとるであろう。本日の政治集会、明日の安保協議斗争を突破口として、帝国主義への反撃を開始しよう。

開始された国際的階級危機の性格

それといかに闘わねばならないか

世界史的危機と高揚する世界革命の波

「世界革命の史上第四の波の前進は、帝国主義心臓部のいつそう戦略的に結合された反帝闘争にかかる。」帝国主義の世界的危機への接近の根本要因は、帝国主義の不均等発展 世界史上三度目の市場再分割戦が米帝国主義の一元的支配体制を崩壊させたこと、そのことによりて国際的にも国内的にも再編成がせまられているところにある。この国際的、国内的な再編成は、これまで帝国主義が人民を統合していく価値観、支配形態の一挙的な転換とならざるをえず、階級的な決戦が避けられないものである。帝国主義列強の対立抗争は、日本帝国主義・西独帝国主義を中心とする帝国主義の对外膨張によつて鋭さをましている。だが、日本帝国主義も西独帝国主義も、戦後米帝国主義が行つてきたような「労働者国家」群に対する反革命的軍事体制と、後進資本主義国に対する新植民地主義的侵略との両方を自力で維持し、やりとげるだけの力をいまだ持つていな。それゆえ当面、日帝も西独帝も、米帝と競合しながらも反革

らかにした。

我々はチエコ人民の英雄的闘争を断固支持する。そしてチエコ人民支援の、ヨーロッパの広汎な戦闘的闘争と連帶する。だが、この支援。連帶は、決してチエコの国家主権のため「チエコ民族の自決支持」のためではなく、和平への復活を願望するのでもない。この事態が不可避的な危機であり、現在の世界的な危機の一環であるとともに、帝国主義列強打倒。プロレタリア独裁をめざす方向性において支援し、連帶するのである。

「だから、われわれの現時期からの闘争の基調は、次の点におかれる。」

「それは日米安保粉碎。NATO解体。ヴェトナム人民勝利を戦略的環とする闘いである。世界革命をめざすこの当面の闘争は、日本においては、六九年一月三月首相訪米。日米会談粉碎に全人民的決起を勝ち取るべく、一〇、二一国際統一行動を自國帝国主義打倒。反革命同盟粉碎の戦略的方向めざして闘いぬくことである。かかる闘いを通して、かつ、かかる闘いを一貫してこない、世界革命戦争に転化する国際。国内的な反帝統一戦線の飛躍的強化を追求しなければならない。そして、侵略。反革命との対決を、プロレタリア独裁に領導しうる党を、まさに、世界党への展望において建設しなければならない。

帝国主義の「反ソ」「ドブチエク支援紛糾

今日、チエコに表現されるソ連・東欧圏のいつそつの分解と対立は、帝国主義列強の侵略。反革命同盟再編と史土三層目の資本家団体

命同盟 N A T O 。安保を結び、軍事力を強化して、N A T O 。安保の中での自國帝国主義軍隊の地位を強めるかたちで再編しようとしている。しかし、このことはいわゆる「戦後民主主義体制」を根底から再編し、労働者人民の闘い（日本では砂川羽田斗争以降のベトナム人民と国際的に連帶した斗争）と対決せずには遂行できない。ここに帝国主義の「上からの暴力」治安攻勢、思想統制が強行されることは必然性があり、この国内反革命に對して斗いに立ち上がるプロレタリアートとの階級決戦の避けられない理由があるのである。

我々はこうした危機の接近に對して、今日の帝国主義の侵略と反革命の強化に対決し、粉碎する闘いを、連続的に世界同時的暴力闘争に転化しなくてはならない。「七〇年安保粉碎、六九年N A T O 解体の闘いを、ベトナム人民の勝利と結合して闘いぬくことが、その中心である。」

「ヴェトナム人民の革命的闘争、フランス「五月革命」、西独常事態法粉碎斗争、アメリカのヴェトナム反戦斗争と黒人反乱、キューバの世界革命根拠地化への方向と中南米ゲリラ闘争は、そして日本の反帝闘争はかかる世界同時的権力闘争、革命戦争への接近を準備してきた。それは同時に、中国文化大革命、ユーゴ。ボーランド。チエコ等の革命的学生の闘争に代表的な、歪められた労働者國家の矛盾に對決する中国。東欧。ソ連内の革命的闘争を、その根源との対決。帝国主義打倒の革命戦争の一環にたかめ、かつ、帝国主義との対決を回避。屈服するスターリン主義と、その国际内機構とを粉碎する方向性にたかめることを要求してきた。」チエコの事態は、いつそうこの要求がさせられたものであることを明

の世界市場分割戦に對して、それらを打倒する方向で対処しえず、逆に屈服を合理化してきた（平和共存）ことの結果である。帝国主義は種々の形態によつて、東欧圏への經濟的。政治的。軍事的介入を策してきた。米ソ平和共存戦略はソ連にとつては米帝と同盟しつつ、西独帝国主義と対抗する戦略であつたが、ソ連はこの戦略の下にド。ゴールの仏帝とも結んで、西独を孤立させようとしてきた。そのためには仏帝の東欧接近も許容したのである。だが西独帝の資本蓄積は仏帝を圧倒し、ド。ゴールは「五月革命」のパンチを食らつてしまつた。西独帝は、かつてのハルシニタイン原則東欧不介入の路線を捨てて、「東独統一促進」を唱え、N A T O の主刀草を荷い、ヨーロッパ反革命の盟主となろうとしているのである。キジンガ一大連合政府は、非常事態法の実現対ソ対東欧強硬策の方向を、米帝の対ソ平和共存を批判しつつ、侵略。反革命として進みつつあるのだ。かくて、西独帝によるチエコ「自由化」の強制、「自由化」を利用した政治工作が進められていたことは事実であり、今回のソ連。ワルシャワ軍介入を口実に、急速に西独帝によるチエコの勢力圏への編入の陰謀。自國危機の外化は強まるであろう。

すべての帝国主義が、大なり小なり、ソ連の武力介入を非難し、自らの帝国主義的侵略。反革命を陰へにするばかりか、この間のプロレタリアートの斗争の発展に對して、「反ソ・反共」を唱えることによつて対抗しようとしている。こうして、反ソ・ドブチエク支援「チエコ民族自決支持」の、帝国主義者によつて組織された「闘争」は、とりわけ、侵略。反革命の貫徹を一挙的に行おうとして世界階級闘争に毒芽をむき出している。

アメリカ帝国主義は、対チエコ武力介入について事前協議をソ連からうけ、基本的に現時点では、米ソ平和共存を維持した戦略再編の必要性から、ソ連・ワルシャワ軍の介入を黙認しつつも、「共産主義」の脅威をあらためて説くことによつて、ヴェトナム侵略による国内統合の破綻を、強力に、反共ナショナリズムの再生と自國利益と世界戦略の統合によつて、国内急進派と世界革命の第三の道派を孤立させ、粉碎しようとしている。

仏帝国主義は、「五月革命」に对抗して、極右軍部との結合を深め、対ソ強硬路線に転じたが、「反ソ・反共」を掲げて仏共産党を攻撃し、革命的左派を弾圧し、水爆実験の成功によつて「栄光あるフランス」を回復しつつある。

日本帝国主義は、反米ナショナリズム、反中國、反共ナショナリズムでは統合しない侵略。反革命の強化の困難性を、「反ソ・反共」を国防・安保攻撃にもちこむことによつて、とりわけ砂川・羽田斗争以来の反帝闘争の強化とその爆発的拡大を抑圧し、小ブルジョア大衆をひきつけ、侵略。反革命の政治委員会確立と一二月自民党大会、総裁選のなりきりと、対外路線の貫徹に、急速になりだそつとするだろう。七〇年安保と沖縄問題は、決定的重要な性をもつて押し出されるであらう。このブルジョアジーの動きに対しても、民社・公明の排外主義潮流は、その本性を露呈して手を組み、「反ソ・反共」から自主防衛を挙手を上げて賛美する行動に出ているのである。社会党はその非武装中立論の決定的破産を、「米帝が日本に介入してくる場合、安保が凶実になる」とどと、反米ナショナリズムでつくらおうとし、排外主義への道を自ら掃き清めていく。共産党

るところ、帝国主義の不均等発展の法則の鉄の貫徹を見ることができないなかつたのであり、「五月革命」による良き同盟者、仏帝の平和共存戦略の転換、対ソ強硬路線は、西独封じこめ戦略の破綻に輪をかけたのである。こうして西欧帝国主義とソ連との東欧をめぐつての対立は深まり、中近東戦争以来抬頭していいた対西独強硬派・スロフ派「イデオロギー官僚」とブレジネフ、コスティキンとの対立を生んでいたのである。チエコの事態はどうした西欧帝国主義（特に西独）の東欧進出と、ソ連の対西独強硬派の抬頭の中で、矛盾が爆発したのであつた。

チエコに対するソ連・ワルシャワ軍武力介入は、直接には、チエコの「自由化」に起因する。だが「自由化」とは五四〇の侵透。包围とそれによるコメコン経済体制の崩壊によつてもたらされた。コメコンはソ連一国経済に従属させられたものであり、かつ帝国主義包囲のもたらす困難を、世界革命によつて突破することを放棄したことである。

帝国主義の包囲、それに屈服したソ連ナンヨナリズムに統合された体制――→このもとで、チエコのドブチエク派の目指したもののは、ソ連ナショナリズムに対するチエコ・ナショナリズムである。だがそれは、コメコンへの一元的編成下の困難性の打開を西欧帝国主義との結合において展望した。それはユーロ・ルーマニア的、民族共産主義の道である。より帝国主義に対して協調的、屈服的なミニ・スターリン・プロレタリア・ユーロ・ルーマニア・チエコの三国同盟の編成であり、自らの危機と一国社会主義建設、プロレタリア的

は「内政不干渉」「自主独立」を唱えることによつて、「チエコ民族自決支持」では自民党と肩を並べ、またその安全保障政策によつて、社民より右へと突き進んでいく。

我々はかかる帝国主義の侵略。反革命の陰謀と、及びそれに追従している日和見主義者、排外主義者の一切を暴露し、告発しなければならない。そしてこの動向との対決こそ、世界革命をめざす、現下の世界プロレタリア人民への欺瞞の場として、NATO緊急常設理事会、国連安保理事会、日米安保協議会を暴露し、告発しなければならない。また帝国主義のより組織的な陰謀の場として、かつ、世界プロレタリア人民への欺瞞の場として、NATO緊急常設理事会によるスターリン主義粉碎の闘争もなしうるのである。

チエコにおける「自由化」とソ連・ワルシャワ軍武力介入は、帝國主義に侵略。反革命の新たな統合条件を与えるとともに、国際スターリン・プロレタリアートの分解と動搖とが帝国主義への屈服へとつながるとする世界プロレタリアートにとつての危機を、ただ一つ世界革命派が救うことことができ、たゞ一つ世界革命戦争への転化の展望のみが救うことができる示していく。

ソ連の米帝との平和共存戦略は西独帝国主義の封じこめを眼目にして立てられていた。だが、ソ連は西独帝国主義、日本帝国主義がNATO・安保という反革命軍事同盟の主力をにぎりまでに発展す

界革命の放棄の破綻を反動的にとりつくろうとするものに他ならぬ。ソ連→チエコの対抗は、まずもつて、かかる世界革命の展望を自ら切斷し、一国社会主義を「追求」したなかでの自己矛盾の爆発である。

だが、同時に、ドブチエク路線は、「自由化」をソ連・スターリン・プロレタリア旧体制に対する労働者人民の爆発的斗争に譲歩して、政治を行わなければならなかつた。このことこそ、ドブチエク派とは明瞭に区別され、まだ確固たる党派を形成してはいないが、実践的に反ソ親西欧をつき破つて、スターリン主義官僚打倒をプロレタリア権力の樹立として押し進める。新たな革命的要因が広範に宿つてゐることである。それは鋭く、政治的自由・プロレタリア民主主義の要求として表現された。ドブチエク派として表現された動きのソ連派とは異なるスターリニスト「親西欧・民族共産主義」・議会制ブルジョア民主主義への接近派（オーダ・シク副首相派）と、一切のスターリニスト官僚打倒・反帝世界革命・プロレタリア独裁派（この間ベトナム反戦斗争を斗つていた学生・労働者）とが激しくて、ソ連の対応は、徹頭徹尾、スターリニスト官僚利害防衛のための帝国主義に対するより組織された屈服と、他民族（弱小・労働者国家）と自國プロレタリア人民に対する反革命抑圧に貫かれたものである。それは、ソ連国内及び東欧諸国に共通のかかる革命的要因の萌芽をも粉碎せんとするものである。かかる萌芽を粉碎して、世界革命の新たな波からますます自己を遠ざけ、国内矛盾を

反動的に自國及び勢力圏防衛によつて隠へいしようとしている力である。

我々はソ連・ワルシャワ軍のチエコ介入に對して、單に「軍事介入」一般に反対し、民族自決権の侵害一般に反対するものではない。「戦争とは過去の政治の継続である」という立場、世界階級闘争の利益を市民的自由に優先させると立場に立つた上で、ソ連・ワルシャワ軍のチエコ介入を全く反革命的であるとするのである。

日本共産党的声明はその意味で民族共産主義であり、コメコンを含む「労働者國家」全体における世界帝国主義打倒を政治方向とした、プロレタリア独裁の復権と、それにもとづく中央集權的社會主義建設と民族の分離・結合の自由の原則を根底から裏切るものである。仮、伊共産党もしかり。そして何よりも彼等は、帝国主義の前にプロレタリア人民を武装解除しているのだ。

われわれは、ソ連路線にも、チエコ・ドブチエク路線にも、東欧

・ソ連・プロレタリア人民が、帝国主義国、後進国・プロレタリア人民と結束して解放を圖りとする道はないことを明らかにして、活路はきわめて現実的に世界革命しかないことを訴える。

われわれは、欺瞞的なソ連の平和共存「世界革命戦略」を弾劾し、かつそれが、チエコに對し武力介入となつてあらわれた反革命を弾劾する。そして、徹底抗戦を通じ、この闘いが、ソ連――東欧諸国・ソ連・プロレタリア人民が、帝国主義国、後進国・プロレタリア人民の革命闘争の潜在的要因を開花させる突破口を切り開くため、スターリンスト官僚打倒の展望のもと、一切の反革命的抑圧機構との対決、したがつてスターリンスト軍隊・ワルシャワ条約機構解体としておしすすめることを訴える。それはチエコ人民にとって、ソ連

及び国内ソ連派、ドブチエク及親帝国主義派の両者を打倒し、のりこえる闘いの道であり、それはコンミュー・ソヴィエトの復活を、

全革命的人民の武装によつて、対ソ徹底抗戦・プロレタリア暴力樹立・反帝世界革命の根拠地化として圖ることである。かかる闘争は、今日の世界革命の第四の波の、東欧・ソ連における前衛的一環として自らを位置づけ、帝国主義の侵略・反革命と対決し、世界反帝統一戦線――世界赤軍によってになり、世界革命戦争への、等

質的同時的闘争と結合する唯一の進路である。

ソ連派共産党をのぞく、各國共産黨の態度について言及すれば、中國共産党は人民日報論文によつて、「すべての現代修正主義集團の内部矛盾が極度に先鋭化したその結果」とし、周恩来发言もほぼ同趣旨であり「チエコ人民の革命的斗争支持」としてゐる。しかし周恩来发言には国家間関係を利用した、ルーマニアなどの反ソ統一戦線形成を意図するニユアンスがあり、これは誤りである。この党は反米帝統一戦線論にもとづく世界戦略の破綻を総括し、西欧帝国主義、東欧・スターリン主義に対する党派性を明確にすることによって、世界同時革命派へとたかまらなければならぬ。

キューバ、北朝鮮、北ベトナム共産党はソ連・ワルシャワ軍介入をニュアンスの差はあれ支持した。現在帝国主義列強との斗いの最前線に立つてゐる三つの共産党が、ともに支持したことに我々は注目する。これらの党が帝国主義の「反ソ・反共」の攻撃を考慮に入れ、彼らが困難な斗いを斗つてゐるだけに、「政治的に」支持し、国内右派のまきかえしを防ごうとしたことを我々は理解しうる。

しかし、をおかず我々は卒直に彼らの誤りを指摘する。ソ連の対西

欧、アジア強硬派の抬頭を「革命化」であると人民に見誤らせるからだ。

我々は帝国主義心臓部での斗いを世界同時的權力斗争にまでたかめあげることによって、彼らの革命戦争と結合し、彼らの革命の困難性を救わなくてはならない。

10・二 国際反戦ゼネラリストを

世界革命戦争の戦略的第一歩とせよ

侵略・反革命に対決する攻撃型階級闘争を

以上の諸点を総括し、われわれの世界革命戦略の基本は次の点であらねばならない。

帝国主義の侵略・反革命強化に対決する攻撃的階級闘争を、帝国主義国、後進国、「労働者國家」人民の革命闘争の戦略的諸合によつて押し進めること。戦略的結合とは、すべてのプロレタリア人民が、すべての帝国主義の侵略・反革命――その現在的集中的表現であるベトナム侵略、NATO改編、日米安保に對決することを共同の任務とする。かつ、この闘いはこの闘いを放棄し、帝国主義とのめ着による屈伏を行つたり、弱小「労働者國家」を従属させて、一国社会主義・平和共存・世界革命放棄による帝国主義への屈伏を行つたりする。あれこれ「民族共産主義」・「スターリン主義」を打倒することと不可分に結合する。そしてそれは帝国主義国・プロレタリア人民の自國帝国主義打倒・反革命同盟粉砕の総略線対決斗争、後進国人民の民族解放・社会主義への永続性、労働者国家人民の帝国

主義の侵略・反革命粉碎・スターリン官僚打倒を直接的任務とする。これらの闘いは、今日に至るまで、まさに自然発生的に、各國の闘いの徹底化の中で結合し、攻撃的なものに發展してきたのである。現在は、世界革命才三潮流の戦略的結合を開始する段階である。10・二・一国際統一行動に集中されるべきはこの任務である。

われわれは、帝国主義の侵略・反革命の暴威が、スターリニストの屈伏と対立を媒介として、いつそ擴大再生産され、それがもたらしかつもたらすであろう階級危機を、同時的、攻撃的な世界プロレタリアートの斗いへ転化せねばならない。かかる闘争の戦略的轉換点として、目的意識的に結合された革命戦争への突破口として、ソ連・スターリン主義の血の圧殺は、とくに日本を先頭として、スターリン主義と訣別した革命的左翼の世界革命派への、決定的な一契機をなした。今日、帝国主義の侵略・反革命強化が全世界を席捲し、革命的昂揚が訪れてゐるなかで、チエコ問題における諸党派の対応の分裂は、はるかに根底的なプロレタリアートの危機である。

帝国主義への武装解除、社民への転落はすでに述べた。そして才四インターの諸党の基本的に同質の対応・ドブチエク路線への幻想、ソ連への左翼反対派的思考・プロレタリアの斗いに対する樂觀、帝国主義の攻撃への全くの無自覺はこれに手をかしてゐる。革マル中核の革共同西派もまた、オ四インターと同じく、反スタの自己目的化の必然的結果として「反ソ・チエコ民族自決支持」派へと転落した。

彼等はチエコ問題を、チエコ一国、あるいはソ連・ワルシャワ条約諸国とチエコとの関係でしかみていない。彼等は帝国主義がチエコ問題をとらえて、①侵略、反革命の強化のための、反革命同盟再編のテコとし、②「反ソ・反共」として、侵略・反革命路線への国民結集に活用し、③現実に種々の形態で、チエコを突破口とする東欧圏への介入を策し、今後急速にそうするであろうところの圧倒的攻撃に対して思想的実践的に耐えることができないであろう。

特に革共同中核派の混乱は目をおおばかりである。「かかる苛酷な民族的抑圧と官僚独裁が、西ドイツ帝国主義という幻の『假想敵国』を必要としていることを遺憾なく物語つてゐるのである。」（「前進」三九八号巻頭論文）「独立したブルジョア国家間にあつてはおよそ考えることも出来ない、いな、帝国主義国が植民地を征服するときにもかかる露骨な軍事占領の方法がとられたことが歴史的にかつて存在した例があるのかを疑わせる今回のソ連スターリン主義官僚の侵略行為は……」（「前進」同論文）

西独帝国主義が腹をかかえて笑い、自民党が泣いて喜ぶような言葉が、かの「革命的共産主義者」たる中核派諸君の口から出てくるとは世の中も變つたものだ！「どの程度の役割をはたしたかは、はつきりしないが西側からの「反革命」の誘いがチエコに集中したのは確かであろう。」と述べている、「朝日ジャーナル」以下の市民主義者に彼らはなつてしまつた。

NATO安保に表現される帝国主義列強の侵略、反革命同盟再編強化と、その基礎としての市場再分割戦としてのソ連、東欧圏進出が、いつそう「労働者国家」の相互利害対立、スターリニスト指導の帝国主義軍隊解体闘争として闘いぬけ、10・二一大ゼネストを中枢権力攻撃と結合せよ！
日帝打倒・安保粉碎の反帝統一戦線を強化せよ！

かかげ、自国帝国主義の侵略、反革命粉碎をかかげて10・二一大国際反戦ゼネストに立ち、世界革命戦争の戦略的才一步を勝ちとることを訴える。

本集会に結集された労働者、学生諸君！
我々と共に、世界革命の勝利を目指して、当面、断固たる侵略、反革命への対決を日米安保小委粉碎闘争を突破口に、嵐の進撃を！
全国基地、軍事拠点の一斉攻撃闘争を、反革命同盟の実体的破壊

部間の相互対立として拡大したのであることが、彼等には理解することができない。彼等にとつては「反帝」と「反スタ」は分離して存在しているのであり、帝国主義に対する「反帝」を言い、スターリン主義に対する「反スタ」を言つていればよいと思つてゐる。

これら諸党派は、社民とともに、「反ソ・反共」とする侵略・反革命の帝国主義にあたたかく抱きかかえられようとしている。このプロレタリアートにとつての主体的危機を、我々は世界革命才三潮流の思想的政治的組織的ヘゲモニーによつて、とくに、当面の闘いの基軸を、NATO・安保粉碎闘争に集中する実践的な指導力によつて、克服する闘いを闘わなくてはならない。八・三國際反戦會議の巨大な意義はかかる党的結集と、反帝統一戦線の基準を明確にするとともに、SNCC・MSDS・JCR左派との結合、及び独立SDS左派との結合による世界反帝統一戦線形成の展望を、確実に闘いとつたことである。

我々は、あまりにも広大で深い、過渡期の世界の連続的な一挙的な矛盾の爆発に対し、立ち遅れてしまった。にもかかわらず、八・三國際反戦會議は急速に全世界の戦闘を戦略的かつ組織的にたかめ、結合する才一步を闘いとつた。この成果はいま、いつそうさせまる過渡期世界の破局に対し、西欧、米、日のプロレタリアート人民の結束した闘争の導き手として登場することによつて、確実な前進となるであろう。八・三國際反戦會議に結集した國際的国内的諸党派に対し、我々はチエコをめぐる世界情勢に対する世界革命派の任務を訴える。そして、ベトナム革命勝利・NATO解体・安保粉碎を

(注) この論文は「戰旗」一四三号巻頭論文を共産主義者同盟関西地方委員会が責任を持つて、補足、省略、構成の変更、字句修正を行つたものである。

九・一〇全関西政治集会

NATO。安保粉碎！
ソ連・ワルシャワ同盟軍のチエコ介入粉碎！

日時 九月十日(火) 午後六時—九時
会場 大阪市立労働会館 大教室

(環状線 森の宮下車)

- 帝国主義列強の侵略・反革命同盟 NATO。安保を粉碎せよ！
- ソ連・ワルシャワ同盟軍の反革命的軍事介入反対！
- ドブチエクのブルジョア化路線粉碎！
- 世界革命の旗の下、プロレタリア権力の樹立へ！

主催 共産主義者同盟関西地方委員会
社会主義学生同盟関西地方委員会